

健康づくり・スポーツ推進特別委員会行政視察概要

1 視察月日 令和6年7月16日（火）～7月17日（水）

2 視察先及び視察事項

（1）青森県八戸市

八戸市におけるスポーツ振興とスポーツを通じた健康づくりの取組
について

（2）PFI青い森スポーツパーク株式会社（青森県青森市）

新青森県総合運動公園におけるスポーツ振興について

3 視察委員

委 員	田 中 ゆ き
同	花 上 喜代志

視察概要

1 視察先

青森県八戸市

2 視察月日

7月16日（火）

3 対応者

観光文化スポーツ部次長兼スポーツ振興課長 （挨拶・説明）

エスプロモ株式会社取締役八戸市体育館館長 （説明）

エスプロモ株式会社取締役八戸市体育館館長補佐 （説明）

4 視察内容

（1）八戸市におけるスポーツ振興とスポーツを通じた健康づくりの取組について

ア 八戸市スポーツ振興課の取組について

スポーツ振興事業の体系は、「する」スポーツに資する事業、「みる」スポーツに資する事業、「ささえる」スポーツに資する事業に分類できる。八戸市は、冬季降雪量がそれほど多くなく、降雪しても昼間の気温で溶け、夜間の冷え込みにより雪が凍るといった気候特性があり、事業の特徴として氷上スポーツに関わる事業が多い。主な事業としては、ジュニアアイスホッケー交流事業、氷都八戸パワーアッププロジェクト、フラットアリーナ利用促進事業などが挙げられる。

（ア）氷都八戸パワーアッププロジェクト

市の風土に根差したスポーツであるスケートに親しむ環境を醸成しながら競技人口の増加と競技力の向上を図ることを目的に、氷都八戸パワーアッププロジェクトに取り組んでおり、幼稚園、保育園、小学校に対するスケート指導者の派遣、八戸市スケート教室の開催（参加実績：小学生253人、スピードスケートの部：150人、フィギュアスケートの部103人）、スケート競技用具の貸出し、スケート競技用具購入支援補助金事業（中学競技者47人）などがある。

（イ）八戸スポーツコミッション支援事業

八戸スポーツコミッション支援事業は、4つの事業から成り立

っている。

a Y Sアリーナ八戸、フラット八戸及びテクノルアイスパーク八戸等の市内スポーツ施設を活用した合宿・大会の誘致のために、スポーツ合宿補助金（500円／泊・人、上限10万円）を交付している。

・令和5年度実績：延べ宿泊者数2166人

b 地域プロスポーツチームの観戦促進による地域経済の活性化を目的とした地域プロスポーツチーム観戦促進広告補助金（補助率2分の1以内、上限20万円）を交付している。

・令和5年度実績：

・ヴァンラーレ八戸F C（J 3）19ゲーム／3万5916人

・東北フリーブレイズ（アジアリーグアイスホッケー）16ゲーム／1万5305人

・八戸ダイム（「3×3.EXE PREMIER」）3ゲーム／1万654人

・青森ワッツ（B 2リーグ）4ゲーム/4656人

c ヴァンラーレ八戸F Cホームゲーム送迎用シャトルバスを無料で運行している。

・令和5年度実績：21ゲーム／1299人

d 地域プロスポーツ応援負担金(上限20万円)を交付している。

(ウ) 新体育館整備事業

令和4年度に基本構想を策定、令和5年度に事業手法検討調査及び基本計画策定を実施し、P F I事業にて整備する方向性が定まる。令和6年度から7年度にかけて、事業者の公募に向けた手続を行っており、設計・着工は、令和8年度以降となる。

コンセプトは、「する」スポーツ、「みる」スポーツ、「ささえる」スポーツの活動を促し、あらゆる日常生活を支えるための多様な世代の誰もがスポーツに親しめるスポーツ振興拠点を整備することである。

施設の構成案として、メインアリーナ（バスケットボールコート3面分程度）、サブアリーナ（バスケットボールコート1面分程度）、柔道場、剣道場、トレーニングルーム、屋内25メートルプール（8レーン）、諸室が想定されている。

(エ) 第80回国民スポーツ大会事業

国民スポーツ大会とは、広く国民の間にスポーツを普及し、国民の健康増進と体力の向上を目指し、地方スポーツの推進と地方

文化の発展を図ることを目的として毎年開催されている国内最大のスポーツの祭典である。令和8年の第80回国民スポーツ大会は青森県で開催され、冬季大会では、Y Sアリーナ八戸でスピードスケート、フラット八戸でフィギュアスケート、テクノルアイスパーク八戸及びフラット八戸でアイスホッケーなどが行われる予定である。また本大会では、サッカー、バスケットボール、レスリング、自転車トラックレース、ソフトボール、7人制ラグビー、ボウリングなどが行われる予定である。

イ エスプロモ株式会社の取組について

(ア) エスプロモ株式会社について

エスプロモ株式会社は、八戸市体育振興公社の民営会社として誕生し、2009年4月から八戸市運動公園体育施設、2011年4月から八戸市南郷カッコーの森エコーランドの指定管理業務を行っている。

公社時代からの41年間で培ったスポーツ施設運営のノウハウとスポーツ振興の精神を受け継ぎながら、民間企業ならではの視点をプラスした効果的な施設運営を進めている。

社名の由来については、八戸市体育振興公社のロゴに使用されていた、S P O R T S（スポーツ）のエスとP R O M O T I O N（振興、促進）のプロモをつなげた社名である。様々なスポーツ施設と運動公園を運営する立場から、健康づくりとスポーツ振興を支え、地域社会の発展に役立ちたいという思いが込められている。

(イ) 八戸ちびっこマラソン

八戸ちびっこマラソンは今年で24回目を迎える、地域の子供達に親しまれたマラソン大会である。小学生の部（1・2年生1.5キロメートル、3・4年生2キロメートル、5・6年生3キロメートル）、親子ファンラン（未就学児と保護者）が行われる。1000人近くの参加者の実績がある（コロナ前の2018年実績）。ゲストランナーには大迫傑氏（昨年度は神野大地氏）を迎え、また、大会後にはマラソン教室を開催するなどしている。

(ウ) 八戸リレーマラソン

今年で9回目を迎えるリレーマラソンが特徴的で、フルリレーマラソンとハーフリレーマラソンが開催されている。タイムを競うだけでなく、仮装による出場を促したり、お楽しみ抽選会を行

ったりするなど、楽しめる要素を大切にしたマラソンである。八戸市民のみならず、関東からの参加者もいる。

(エ) 南部山ウォーク、カッコーの森エコーランド

今年で13回目を迎える南部山ウォークは、八戸市の山や田畑を活用した自然を楽しみながら歩くイベントであり、450名の募集定員が満員となる人気のイベントである。また、紅葉の時期には、カッコーの森エコーランドの200本のいろはもみじの紅葉を見ながら歩く環境が整っており、2日間で5000人以上の方が来訪している。老人ホームのバスも通過できるよう、整備もされている。八戸市ならではの自然を生かした、特徴的な健康づくりの取組である。

(オ) 健康づくり事業

16歳から誰でも参加できるシェイプアップ教室、体力レベルアップ教室、カラダづくりエクササイズ、ストレッチ体操など、全て満員になるほど参加者が多い。参加費は1回100円である。スポーツ施設の駐車場は無料である。

ウ 質疑概要

Q 合宿補助金による経済効果について教えてほしい。

A ホテル、飲食店からは、合宿補助金事業のおかげで来訪者が増え、経済効果を実感しているとの声がある。

Q スポーツ協会との連携について教えてほしい。

A 約40団体との連携を図っている。

Q 新設する体育館に武道館を造るのか。既存の武道館は残すのか。

A 武道館も新設する。一方、市民ニーズが高いため、既存の武道館も残す。

Q プロスポーツを「みる」ための観客席数を教えてほしい。

A バスケットボールは2000人、アイスホッケーは3000人、サッカーは2000人である。

Q 高齢者の健康づくりの状況（トレーニング室の利用状況）について教えてほしい。

A 具体的に統計は取っていないが、トレーニング室利用者の約7割が高齢者の印象である。八戸市の高齢者は外に出て、運動することが盛んである。

Q ランニングイベントの集客をどのように行っているのか。

A ネットによる集客のみ行っており、民間のランニング情報のポ

ータルサイトであるランナーズを利用している。そのため、他都市からも参加者がいる。ゲストランナーについても、ランナーズを通じて依頼している。

Q その他、イベントの広報の方法について教えてほしい。

A 市ホームページ、協賛企業による広報、過去参加者等へのメール配信をしている。

Q アマチュアスポーツ施設の充足度についてはどのように考えているのか。

A 施設が足りておらず、市民ニーズを満たしているとはいえないが、人口減少期を迎えており、新しい施設を建設することは難しい。

Q 八戸市のスキー場設備について教えてほしい。

A 八戸市に1つあるが小規模のものである。車で2時間ほどの岩手県のスキー場が大規模であり、八戸市から最も近い。

Q スケート文化について教えてほしい。

A 八戸市では明治時代からスケート文化があり、冬になると水田が凍り、その上で市民がスケートを楽しむといった歴史があった。なお、現在では水田を利用したスケートは行われていない。

Q 相撲場の観客席について教えてほしい。

A 相撲場には観客席はなく、「みる」施設としての機能がない。

Q グラウンドゴルフの普及について教えてほしい。

A グラウンドゴルフは盛んである。自然豊かな地形を生かして、山の斜面を活用したグラウンドゴルフも行われている。屋内グラウンドゴルフ施設やグラウンドゴルフ協会もあり、市全域で盛んに行われている。

Q 河川敷の活用について教えてほしい。

A 1級河川があり、国が管轄するゴルフ場、ラグビー場、野球場などがある。利用受入れ等は市が行っている。

Q 横浜市では18区のスポーツセンターだけでなく、身近な公園を活用し、健康器具を設置して健康増進を図っているが、八戸市の取組について教えてほしい。

A 八戸市では、スポーツセンター、身近な公園に健康器具の設置はしていない。

Q プロスポーツと市民との関わりの取組について教えてほしい。

A サッカーJ3選手との交流、3×3バスケットボール観戦促進

が八戸市では人気が高い。また、プロアイスホッケーチームが雪かきを実施するなど、市民との触れ合いを大切にしている。

(2) 委員所見

横浜での取組につなげられることとして、身近なスポーツ施設へのアクセス性のよさ、駐車場も含めた利用料金の安さは、身近にスポーツをする場と機会が確保されるため、あらゆる世代のスポーツ推進、健康づくりにつながると考えられる。

合宿補助金事業についても、スポーツ振興だけでなく、経済効果も期待できるため、市内既存スポーツ施設の稼働率を上げることも視野に入れながら、補助金制度導入を検討できると考える。

八戸市の特徴として、氷上スポーツを生かしたスポーツ振興が挙げられるが、本市には様々なスポーツ競技の団体やプロスポーツチームがあるため、それらの特徴を生かした、特定の種目のスポーツに特化した、他都市にはないスポーツ振興の在り方も考える余地がある。



(八戸市体育館にて)



(YSアリーナ八戸にて)



(会議室にて説明聴取)

視察概要

1 視察先

P F I 青い森スポーツパーク株式会社

2 視察月日

7月17日（水）

3 対応者

株式会社鹿内組事業部 P P P 部門グループマネージャー （挨拶）

株式会社鹿内組事業部 P P P 部門チームスタッフ （説明）

4 視察内容

（1）新青森県総合運動公園におけるスポーツ振興について

ア 新青森県総合運動公園について

青森県のスポーツ施設の中核である新青森県総合運動公園では、全国規模の大会が数多く行われている。また、ジョギングコースや遊具広場は、日常の健康運動や触れ合いの場として広く利用されている。2019年9月に陸上競技場、補助競技場、投てき・アーチェリー場、2024年4月に50メートルプールがそれぞれ共用開始され、2026年開催の青の煌めきあおもり国スポ・障スポ大会へ向け整備が進んでいる。

イ P F I 青い森スポーツパーク株式会社について

P F I 青い森スポーツパーク株式会社は、新青森県総合運動公園新水泳場等整備運営事業における6社を構成企業としたP F I 事業である。

ウ マエダアリーナによる取組について

（ア）50メートルプール

2024年4月、青森県内初の屋内50メートル公認プールとして開館した。可動床による水深変更（0メートル～2.2メートル）が可能のため、水泳初心者からハイレベルな競技者まで、利用することができる。また、50メートルプール（国内公認）、25メートルプール（国内公認、アップ用プール）への相互転換が可能のため、様々な用途で施設を利用できるほか、貴賓室、記録室、会議室など2026年開催の青の煌めきあおもり国スポ・障スポ大会へ対応するための設備が整っている。広々とした50メートルプールが

開館したことにより、市民利用も盛んになり、レーンごとに歩く、泳ぐなど分けて、初心者から慣れ親しむことができる工夫が施されている。

今年7月、12月（予定）には、様々な世代が参加できる、「ナイトプール」の開催を予定しており、準備が進められている。その他、10月には「水泳の日 in 青森」、1月には新春初泳ぎイベント、3月には50メートルプール水泳記録会が予定されており、50メートルプールを活用した、市民スポーツの推進、スポーツ振興が図られている。利用料は1時間200円である。

(イ) トレーニングルーム

有酸素マシン（トレッドミル、ステーションナリーバイク等）、筋力トレーニングマシン（ウエイトスタック式マシン、油圧式マシン等）、フリーウエイト（各種ダンベル、バーベルラック等）、各種マシンの種類や数が豊富に取りそろえられており、若者から高齢者までが利用している。また、通年で、トレーニング初心者を対象とした1回2時間の講習会が行われており、さらなる利用促進が図られている。利用料は1時間100円である。

(ウ) メインアリーナ

64メートル×46メートルの競技フロアがあり、バレーボール4面、バスケットボール3面、テニス3面、ハンドボール2面、バドミントン14面が取れる広さがある。観客席は固定（2・3階3368席）と移動（1階最大1980席）となっており、B2リーグなどスポーツイベントだけでなく、コンサートや展示会などの文化イベントも開催されている。また、大規模イベント時、他施設で課題となるトイレについては、可動式の扉を開くことで、普段は利用しないトイレを開放することができ、十分な数を確保している。

(エ) 合宿所・レストラン

マエダアリーナ内には合宿所があり、部屋数は57室（シングルルーム20室、ツインルーム28室、トリプルルーム3室、和室15畳6室）、最大収容人数は145人である。大浴場とレストランもあり、各種スポーツの強化合宿や大会だけでなく、職場や学校の宿泊研修、レジャー目的にも利用されている。十分な間取りと設備のある居室であり、基本料金が一般1800円、高校生1150円、小・中学生1020円（寝具料、冷暖房費、食費は別途）と大変廉価であり、利用者も多い。レストランでは、合宿所の3食を提供してい

るだけでなく、来訪者や職員がランチを取ることができ、日替わりメニューも提供されている。

エ 質疑概要

Q マエダアリーナの名称について教えてほしい。

A 地元スーパーのネーミングライツ使用である。

Q 50メートルプールは新設となるのか。

A 屋外の50メートルプールを廃止し、移転した。

Q 合宿所の利用促進について教えてほしい。

A 主に合宿誘致に力を入れている。

Q 駐車場の収容台数と料金について教えてほしい。

A 1000台収容、料金無料である。

Q 冬季の営業について

A 屋外施設については、冬支度と積雪が多いため11月～4月が休業となる。

Q 学校プールへの利活用について教えてほしい。

A プールがない学校が多いため、授業の一環として活用されている。

Q 地域スポーツクラブとの利用の関係について教えてほしい。

A 指導者、スポーツの場の不足により、部活動の地域移行が進んできている。

Q 武道の利用について教えてほしい。

A 武道の利用はない。なお、県内には武道館がある。

Q トライアスロンの利用について教えてほしい。

A トライアスロンの利用はない。

Q コンサート等イベントについて教えてほしい。

A 利益の観点より5000席を埋められるアーティストのコンサートを実施しており、過去には安室奈美恵、ゆず、D r e a m s C o m e T r u e、平井堅などの実績がある。なお、機材は持込みとなる。

(2) 委員所見

横浜での取組につなげられることとして、大規模な大会開催（第80回国民スポーツ大会）を機に、スポーツ振興を行うことは、青森県と同様進めていくべきと考える。また、ナイトプールや水泳の日 i n 青森、新春初泳ぎイベントなど、横浜でもプールを活用したイベントを開催できると考える。

トレーニングルームの活用については、駐車場も含め利用しやすい利用料の設定、トレーニング初心者講習の実施により、新規利用者を増やすことや定着につながっている。本市においても、各区スポーツセンター等にて、利用を促したい年齢層をターゲットとした利用料の減免やポイント制度によるインセンティブを設定したり、トレーニング初心者講習の充実を図ったりすることが、健康増進の取組につながると考える。



(マエダアリーナ玄関にて)



(会議室にて説明聴取にて)



(メインアリーナ)